

意欲に応え、可能性を広げる 愛知淑徳の授業

今号から始まった「意欲に応え、可能性を広げる愛知淑徳の授業」では、時代の先を見据えた教育に力を注ぐ愛知淑徳学園(大学・高等学校・中学校)のさまざまな授業を紹介いたします。生徒・学生の意欲に応え、一人ひとりの可能性を広げる教育現場の熱を伝えます。

大学

人間情報学部
人間情報学科

ネットワーク論 三和義秀教授



情報社会の基盤となっている
ネットワーク技術を幅広く学びます。

人間情報学部では、高度情報化社会のさまざまな分野で活躍できる人材の育成をめざし、心理学、人間工学、図書館情報学を総合的に学びます。その学修の基盤となるのが、情報検索や情報処理などのコンピュータに関する基礎的な科目です。中でも、1年次の前期授業として開講される「ネットワーク論」で学ぶのは、情報社会を支えるネットワーク技術や機能。特にインターネット環境に焦点をあて、その基盤技術としてパケット通信、プロトコル、IPアドレスとサブネットマスクのしくみ、およびホームページを作成・運用していく技術などを実践を交えて身につけます。情報の受発信に欠かせない知識・技術を習得し、情報セキュリティや情報倫理を深く理解することは、より専門的な学修はもちろん実社会においても広く役立ちます。

大学

福祉貢献学部
福祉貢献学科
子ども福祉専攻

保育内容 身体的表現(A・B)

松田秀子教授 / 藤巻裕昌助教



学生が自ら身体表現を追究し、
子ども向けイベントの実施にも挑みます。

「福祉マインド」を持った保育士や幼稚園教諭を育てるために、子ども福祉専攻では、学生が互いに高め合い、協働する実践的な学びを重視しています。そこで「保育内容 身体的表現(A・B)」では、子どもの発達段階に応じた身体的表現活動を探究し、指導力だけでなく表現力も豊かに伸ばすことを目標としています。学習内容は、幼児の身体表現力の変化と特徴、幼児の身体表現を引き出し育むための保育者の援助・指導、「楽しみ」「笑い」「怒り」の表現方法など。その集大成として毎年、クリスマス発表会を開催し、地域の子どもたちに劇を披露しています。会全体の企画・運営、劇や手遊びの練習などに仲間と協力して取り組む中で、学生たちは保育・幼児教育の現場で欠かせない知識や行動力などを自ら培っています。